



「がんサロン」とは がん患者さんとご家族の皆さんの会です。患者さんやご家族の相互の親睦、交流、支えあいを通して療養生活を豊かにすることを目的としています。

がんサロンを開催しました

5/11、5/26、6/15、6/26、7/13、患者さんにご家族の合同サロンとして開催しましたが、それぞれ8名、8名、8名、9名、6名の参加者でした。初参加の方から毎回参加されている方まで多くの参加があり、2グループに分かれて話をしました。「治験や新薬」の考え方、「化学療法の副作用」による生活への影響、「情報収集の仕方」、「コミュニケーションの方法」など、これまでも繰り返し話題になる内容や、「手術後の傷の痛み」について体験された方のお話を聞くことで、参加者それぞれが生活や治療に向き合うことができました。



特に7/13は、毎回参加されている方や久しぶりに参加された方で、初めて男性グループと女性グループに分けて行ってみました。女性グループでは病気を抱えながらの主婦としての日々の生活のお話や、病院・治療の選択のことなど、和気あいあいと楽しく話することが出来ました。グループを分け少人数にすると、話やすいという意見や、女性同士で話ができ楽しかったという感想が多くでした。

がんサロンも回を重ね、「調子の悪い時こそサロンに参加して元気をもらえる」、「入院しているときは多くの人がいるから良いが、家に帰ってからが大変であり、サロンで皆さんと会うのが支えになる」という意見が出ます。今後も気軽に安心して集えるグループになるよう続けていきます。

～INFORMATION～

婦人科から本誌への掲載ご希望をいただきました

★本誌へ掲載をご希望の方は、下記発行元へご連絡ください★

若年女性がん患者さんの治療寛解後に、女性としてのQOL改善を目指した新しい治療法・卵巣組織あるいは卵子の凍結法

若年のがん患者さんや免疫疾患患者さんの中には、化学療法や放射線療法により月経が来なくなったり排卵しなくなったりする、いわゆる卵巣機能不全の状態に陥ることがあります。抗がん剤による卵巣に対するダメージは、全ての抗がん剤によって引き起こされるわけではありませんが、がんを克服した患者さんの中には、治療によって卵子の数が極端に少なくなり、妊娠が出来なくなってしまう場合があります。化学療法や放射線療法は、患者さんの命を守るためにまず優先されるべき治療であって避ける事は出来ません。

しかし、我々は主治医と相談の上、事前にあなたの卵巣組織の一部あるいは卵子を凍結保存し、がんや免疫疾患の治療後に凍結保存していた卵巣組織をあなたの体内に戻す(移植)か、凍結保存していた卵子をあなたの夫の精子と受精させ、妊娠を目指す治療(臨床研究)を行っています。

本臨床研究に興味を持たれた患者さんは、治療を開始する前に私達の所に相談に来られませんか？

可能な限りお力になりたいと思っています。

聖マリアンナ医科大学病院 産婦人科

鈴木直、杉下陽堂、五十嵐豪、奥津由記、石塚文平

今後の予定

・日時 8月13日(金)11時～12時半

8月24日(火)11時～12時半

*9月は下記のとおり毎週実施します。

9月 3日(金)11時～12時半

9月10日(金)11時～12時半

9月15日(水)11時～12時半

9月24日(金)11時～12時半

・場所 病院本館4階 第3会議室 (4F売店、ハートイン介護ショップ横)

事前申し込みは不要です。ぜひ、ご参加ください

ニュース発行およびサロン問い合わせ先

聖マリアンナ医大病院 がん患者相談支援センター(メディカルサポートセンター)ソーシャルワーカー
044-977-8111(内線6371～6374)